

「木工チャレンジコンテスト【製作部門】」 岐阜県大会 大会要項

1. 期 日

令和5年10月28日(土)

2. 場 所

国際たくみアカデミー

岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3545-3 ☎ 0574-25-2423

3. 主 催

岐阜県教育委員会(義務教育課)

岐阜県小中学校教育研究会中学校技術・家庭科研究部会

4. 後援

岐阜県産業教育振興会 熊樹堂 トップマン 中日新聞社 [申請中]

5. 目的

中学校技術・家庭科の授業で身に付けた知識や技術を生かし、目的にあったものづくりを通して、生徒の知識や技術の向上を図るとともに、ものづくりに対する実践的な態度を養います。

互いの製作状況から知識と技術を学び合い、ものづくりへの意欲をさらに高めます。

6. 応募締切

令和5年9月29日(金)

参加者は最大で10名です。参加者多数の場合は、書類による事前審査により参加者を決定します。

7. 応募先

各務原市立川島中学校

岐阜県各務原市川島河田町1028番地1 ☎ 0586-89-2700

担当者 相宮隆二 mailto:aimiya-ryuuji@edu.city.kakamigahara.gifu.jp

8. 参加費

2,300円(大会運営費500円 材料費1,800円)

当日受付にてお支払いください。

9. 提出物

当日受付にて、構想図、問題解決レポート、材料取り図、工程表のコピーを一部提出してください。用紙は全国大会のwebサイト(<http://www.ajgika.ne.jp/~mokkou/>)からダウンロードしてください。

10. 応募方法

別紙申込書に必要事項を記入し、構想図、問題解決レポート(写真データで良い)を添付してe-mailで申し込んでください。なお、構想図に関しては内容が伝われば良いので、きっちりしたものでなくともかまいません。

11. 競技内容

全国大会の要項(<http://www.ajgika.ne.jp/fair/23/doc/monog-guideline.pdf>)に準じ、木材による課題製作を通して、木工技術やデザイン、創造性を競います。

11-1【課題】

与えられた材料を活用して、生活や社会の問題を木工の技術より解決できる作品を設計・製作すること。ただし、以下の条件を満たすものとする(自分だけではなく、誰かの役に立つものを製作できると良い)。

11-2【条件】

- ・ 出された競技課題をもとに、4時間以内に完成すること。特に仕上げ工程(ただし、塗装作業を除く)を疎かにしないように、各工程の時間配分を考えた設計に務めること。
- ・ 使用する材料は、ヒノキ集成材(15^{ミリ}×200^{ミリ}×900^{ミリ}:2枚)、シナ合板(4^{ミリ}×450^{ミリ}×450^{ミリ}:1枚)とする。これら以外は、接合金具(クギ、木ねじ、ボルトナット、ノックダウン金具、補強金具、蝶番)及び、把手、フック、マグネットキャッチのみ使用可とする。
- ・ 製作品の大きさは、3辺の合計長さが1600^{ミリ}以内とする。
- ・ 製作工程において、さしがねによるけがき、両刃のこぎりによる切断、平かんによる部品加工、クギ打ちによる組み立て、定規等による検査、紙やすりによる仕上げ作業を含むこと。



11-3 【工具類】

- ・ 必要な工具類は、すべて参加者が用意すること。
- ・ 作業に適した服装、作業中の靴を使用すること。
- ・ 工具の種類は、現在中学校で使用されている技術・家庭科教科書(令和3年度入学の1年生へ支給された教科書は対象外とする)に掲載されているものに限る。
- ・ ジグは自作したのものに限って、使用可とする。
- ・ 鉛筆(赤鉛筆を含む)、鉛筆削り、消しゴム、タオル5枚程度。
- ・ 接合金具(クギ、木ねじ、ボルトナット、ノックダウン金具、補強金具、蝶番、把手、フック、マグネットキャッチおよびその取り付けに必要な手工具(三ツ目ぎり、ドライバ等)。
- ・ 全国大会で準備される工作機械(卓上ボール盤、糸のこ盤)は、県大会では準備しない。

11-4 【審査】

- ・ 審査は審査委員会(岐阜県中学校技術・家庭科の教諭、岐阜大学教育学部に在籍する学生等10名程度の予定)が行う。
- ・ 審査員は、競技時間全体を通してそれぞれの競技者ごとに審査を実施する。
- ・ 審査では、提出物や製作品の完成度、製作品や製作中の創意工夫、製作の技能と態度を評価する。なお、技能の審査対象は、さしがねによるけびき、クギ打ちによる組み立て、定規等による検査、紙やすりによる仕上げ作業に限る。例えば、のみ等による継ぎ手加工などは技能審査の対象外とする。

11-5 その他

- ・ 上記大会要項で定められた工具、材料以外の使用を禁止する。
- ・ 時間延長は30分に限り認めるが、減点対象とする(全国大会一次審査に応募することはできない)。
- ・ 加工ミス等をして指導者や審判員の手助けを受けたときは、減点対象とする。
- ・ 競技者の競技中の負傷については応急処置のみ行い、適宜医療機関で対応する。その間、競技タイマーは止まらないものとする。
- ・ 引率指導教員による助言は、昼食時間休憩中に行う。
- ・ 公平を期すため、当日の作業台(図1参照)は抽選で決定する。抽選順は、受付順とする。



図1 会場図

※競技者の数によって、作業台が減ることがある。

11-6 表彰

- ・ 上位入賞者に賞状等を授与する。
- ・ 第1位の生徒は、県代表として全国大会一次作品審査に応募する権利が与えられる。全国大会は、各都道府県大会等で推薦された生徒の中から、一次審査を経た16名で競技を行う。
- ・ 全国大会一次作品審査に応募する場合、制作ビデオを提出する必要がある。県大会での競技中の様子を撮影するので、引率者は撮影機材を準備すること。
- ・ 全国大会は、令和6年1月20日(土)にオンライン形式で行われる。詳細は、[全国大会の要項](#)を参照すること。

11-7 競技日程

時間	内容	備考
9:00	受付	構想図、問題解決レポート、材料取り図、工程表のコピーを一部提出
9:15	開会式	
9:45	製作競技開始(2時間)	
11:45	昼食・休憩	休憩時、他競技者の作業台を見て回ってもよい。ただし、材料や道具などに手を触れないこと。
12:45	製作競技開始(2時間)	
14:45	製作競技終了	
15:15	プレゼンテーション	ワークショップ形式によるプレゼンテーションを行う。審査員が競技者に製作品についてや製作意図について質問をして回る。競技者は必要に応じて収納するアイテムや使用環境の分かる写真などを準備してもよい。
15:30	作品審査	
15:45	閉会式(表彰)	